

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応 募 者 に 関 す る 情 報

記入日：2012 年 11 月 28 日

応 募 者 情 報	
応 募 団体名	(フリガナ) ツタイカブシキカイシャ 蔦井株式会社 (団体名)
応 募 担当者 連絡先	団体名： 蔦井株式会社 所在地： 〒451-0083 愛知県名古屋市中区新福寺町 1 - 5 7 部署名： 業務管理事業部 総務部 役職名： 氏 名： 山口 卓希 TEL： 052-521-9131 FAX： 052-521-9137 E-Mail： t.yamaguchi@tsutai.co.jp
ホームページ	http://www.tsutai.co.jp/index.html
<p>応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大 2000 字入力できます。詳細は別紙添付可）</p> <p>道にかかわる仕事として、工事部門では、道路環境施設・安全施設工事、一般土木工事、その他道路工事、橋脚・床版補強工事、排水管工事、伸縮装置工事を行い、維持管理部門では、道路及び道路に付帯する施設の保安全管理、清掃、雪氷対策、災害復旧工事その他調査設計施工を行っています。また環境部門では、有料自転車駐車場の運営や管理、販売部門では、道路製品及び安全施設製品の販売、リサイクルプラスチック製品の開発販売、鋼材等の曲加工などを行い、売店部門では、高速道路のパーキングエリアの運営及び管理を行っております。</p>	

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data_list.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

パーキングエリアのご当地メニューによる被災地復興支援型オフセット
認証番号 : C02-0005

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の4分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver.1.1)」に基づく分類

<http://www.jcs.go.jp/pdf/document/kijun.pdf>

<カーボン・オフセット対象・・バウンダリ>

カーボン・オフセットの取組内容に関して、オフセットの対象範囲をお書きください。

【例】3①-1に記載した算定範囲と同じ or 算定範囲のうち、〇〇、〇〇の部分に関してカーボン・オフセットの対象とした

- ▶ 3①-1に記載した算定範囲と同じ

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

- ▶ 2012年9月15日～限定販売数量45,000食を完売するまでの期間

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

A4 チラシ (別添 1)

<http://www.tsutai.co.jp/carbonoffset.html>

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

カーボン・オフセットの取組内容に際して、排出量の算定についてお書きください。

(自己活動オフセット支援以外の場合)

①-1 排出量の算定方法及び算定範囲

- ▶ 算定範囲は、ご当地メニュー（山賊焼やソースカツ）等の対象商品を調理する時に使用するLPガスの燃焼に伴うCO₂排出量。
- ▶ 対象店の3ヶ月のLPガスの実際の使用量と3カ月間の商品の実際の売上個数に基づき、上記で設定した対象商品1個あたりのCO₂排出量を算定した。

①-2 排出量の算定に利用したデータ種類

- ▶ LPガス使用量：ガス会社の請求書に基づき、実績値を使用
- ▶ 売上個数：当社の販売管理表に基づき、実績数値を使用

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください（複数可）。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1.002 排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

- 節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ
 その他（調理時に使用するLPガスの火の管理をすることで使用量を削減）

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

J-VER (100%)

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

釜石地方森林組合による集約化施業（森林整備活動）を用いた温室効果ガス吸収事業～釜石市緑のシステム創造事業～（日本・岩手県）

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

平成24年8月7日 無効化

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

- ① CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。
- ② CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

① CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について

項目	期待した効果	成果
売店内の蛍光灯の間引き	電力量の削減	・電力量の削減に貢献できた。
今回の取組みに際し、従業員に対し、CO2削減に寄与する取組みについて説明するなど、省エネに関する取組みを説明した。	従業員による自主的な省エネ活動（運用）	・エアコンの温度調整や ON、OFF をこまめにするなどしたりしている。 ・休憩室の電気も退室時には必ず切るようにしている。

② CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果

- ▶ 弊社は、関係者（お客様/従業員/その他）の理解を得るにあたって最も効果的な方法は、「温暖化」や「被災地支援」の問題をわかりやすく伝えることであると考えました。そこで、パネルや4コマ漫画、キャッチフレーズ等を積極的に活用するなど、伝える努力（工夫）をしたことが、上記の成果に繋がったと考えております。

2. カーボン・オフセットの内容

- ① 自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。
- ② 自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください。

①カーボン・オフセットの取組の意義・重要性について

- ▶ 今回の取組みは、主として以下の2点の意義があったと感じております。
 - i) 消費者に対し、カーボン・オフセットを通じ、温暖化・震災復興のフリーライド化を防ぐことができた。
 - ・被災地の森林組合等へ排出権購入のお金を直接届けることが出来、そのお金を利用してもらうことで、更なる森林整備につながる。森林整備が活発になってくことで、雇用が拡大し、被災で仕事を失った人たちが元気になる環境が整い始める。そして、雇用が増え、森林組合で働く人たちが増えることで、地域の経済が少しずつであるが回り始める。こんなことを期待しながら、カーボン・オフセットの検討を開始しました。そして実際に、釜石地方森林組合を訪問し、現地を見せてもらい、思いは確信に変わり、今回の取組みはとても意義のあることだと感じました。但し、弊社単体の力では大きな貢献は難しいとも感じました。ですので、今回、この思いを実現する為に弊社ができることは、「被災地支援/温暖化の重要性を伝えること、カーボン・オフセットという取組みでそれが実現できること、の2点を第三者に浸透させることであると感じ、今回のカーボン・オフセットの取組みに至りました。
 - ・そこで、より身近なこととして感じてもらえるよう、人々の生活の基盤である衣・食・住の食という消費者にとって身近な活動を対象としてカーボン・オフセットを活用しています。「環境貢献に関する意識の向上」・「被災地復興に対する意識の向上」、強いては、今回の取組みにより、「誰でも環境に良いものを選ぶだけで、誰かの為に役だつことができるという意識を芽生えさせること」に寄与できたと考えております。
 - ii) カーボン・オフセットの認知度向上
 - ・弊社のような中小に属する会社でも、工夫（考えて考えて考え貫く）をすることで、効果的に自社の取組みにカーボン・オフセットを取り込めることを広く対外的に伝えることができたと思います。弊社の取組みが参考となり、今後、中小企業におけるカーボン・オフセットの取組みが増加することを期待しています。
 - ・ご当地メニューを活用した地産地消による震災復興支援/環境貢献（地方性）、食を切り口にした震災復興/環境貢献（汎用性）など、様々な要素を加えたカーボン・オフセットの取組みが実施できたと自負しております。弊社の取組みが他の地方企業、

同業他社の模範となることで、今後、様々な要素の入ったカーボン・オフセットの取組みが増加することを期待しています。

②カーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについて

- ▶ 今回は、弊社が運営している高速道路のパーキングエリア3店舗だけの活動となりましたが、中日本さらには全国の高速道路のパーキングエリアでの活動に繋がるように、中日本エクシスや関係各所に働きかけをしていきたいと考えています。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する河川・湖沼をはじめとする内水面や土壌・大気あるいは生物多様性といった自然環境への配慮や保全などの環境の面での貢献
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する地域・社会への経済的便益や効果、第1次産業と他産業との連携促進、地域活性化や一村一品活動の拡大などの地域・社会の面での貢献
- ③自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する中小企業振興や産業基盤にとって重要な安定的なエネルギー供給・確保、環境と調和した市場の牽引などの産業振興の面での貢献
- ④自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献

★環境、地域・社会、産業振興等の貢献性について 【該当項目：②・③】

- ▶ 前述のとおり、取組み本来の価値（環境貢献/被災地復興）もさることながら、地産地消といった点にもフォーカスを当てています。今回の取組みは、ご当地メニューに限定することで、「地産のものを食すること」が「環境貢献につながる」という構図を作ることで、地産の商品にフォーカスが当たるようにしております。これにより、少なからずともご当地メニューの販売量増加に繋がったと思います。また、日級グルメを取り入れることにより、親しみやすさも提供できたと思います。
- ▶ ご当地メニュー等を販売する企業は比較的中小企業が多いと思います。上記2-①と重複しますが、中小に属する弊社が、今回の取組みを実施することで、飲食業界で、カーボン・オフセットの取組みが増加することを期待しております。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫（イベントの開催やツールの開発等）についてアピールしてください。
- ②人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響も踏まえてその成果をアピールしてください。

①「自分ごと化する」ために行った創意工夫

- ▶ 弊社が今回の取組みにおいて最も力を入れた点となります。まず、広告物のレベルを小学生が見て分かるレベルをコンセプトにパネルやチラシを作成しました。そもそものカーボン・オフセットの仕組みというものが難しいからです。また、残念なことに知名度も低くその難しさから、きちんとした説明をパネルやチラシに掲げると読んでもらえないと考えました。そこで、コンセプトに沿うように、まずは、わかりやすいキャッチフレーズ「おいしく食べて 被災地支援」を設定しました。パネルは出来るだけ簡素に被災地の現状とカーボン・オフセットを使用することで支援が出来ること、被災地が元気になることを訴えました。また、チラシでは、カーボン・オフセットとは？というようにして今回の取り組みの内容が分かるように、4コマ漫画を採用しました。とっつきやすい場を設けることで、カーボン・オフセットを知ってもらうためです。

② 人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響

- ▶ 上記のような取り組みが評価され、地域の新聞で取り上げられ、「おいしく食べて 被災地支援」という今回のキャッチフレーズや取り組みの内容が紹介されました。

5. ストーリー性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。
- ②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫についてアピールしてください。また、低炭素社会の実現にどのように貢献しているのか、アピールしてください。

①「魅力」「面白さ」「ユニークさ」

- ▶ ストーリー性は、前述の繰り返しとなりますが、「おいしく食べて 被災地支援」をキャッチフレーズとし、衣食住の中の食をメインに取り上げ、食べる事が被災地支援と環境への貢献になることが弊社の取り組みの最大のポイントです。お客様に、「おいしく、良いこと（環境貢献/被災地復興支援）できた！」とってもらえる点が、面白さ・魅力だと感じております。

②第三者である市民に伝えるために行った創意工夫について

- ▶ カーボン・オフセットというものへの参加を簡単に楽しく出来るというものにする事で、被災地支援とカーボン・オフセットの認知を同時にしてもらう場を作ったことです。そして参加方法は、単純に、ご当地メニューである、山賊焼やソースカツを食べるということです。
- ▶ また、カーボン・オフセットというものを参加者の目線まで下げ、小学生が分かることをコンセプトにすることで、取組み自体の分かりやすさを目指しました。そうすることで、今を生きる若い世代にカーボン・オフセットの制度のことを知ってもらい、将来彼らが社会に出たときに多種多様化する社会でのカーボン・オフセットの利用を期待しています。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDF の場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG 等）お送りください。

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 7 階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp